

日本基督教団札幌教会の教会員と関係者の皆さま

新型コロナウイルス感染症拡大時における牧会方針について（第3信）

2021年7月4日

牧師 小林克哉

役員会

わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。

（2021年度聖句・フィリピの信徒への手紙第4章13節）

主の恵みと平安がありますように。新型コロナウイルス(COVID-19)変異株による感染症拡大に伴い各地で「緊急事態宣言」「まん延防止等充填措置」が出されています。北海道、特に札幌における感染急拡大は予断を許さず、6月20日に「緊急事態宣言」が解除されたとは言え、7月11日まで「まん延防止等充填措置」地区になっています。感染力が強い新型コロナウイルス変異株（デルタ株等）の影響、人流の増加の傾向、またオリンピック開催など懸念される要因があります。

札幌教会の「教会としての業」はこれまでどおり維持しますが、6月27日の定例教会役員会にて審議し、8月29日までそのかたちを下記のように延長することといたしました（すでに5月30日付の「牧会方針」で示したものと同一内容です。）

1 主日の礼拝

* 主日礼拝は「公同（共同）の礼拝」ですので中止することなく、礼拝堂は閉鎖されることはありません。ただしそのかたちは、同時刻（午前10時30分より）に礼拝堂と各家庭に分散しての礼拝をもって札幌教会の主日礼拝とします。これは昨年来、継続していることではありますが、改めて確認いたします。

* 「教会堂での礼拝」は礼拝堂に集まることが許された者でささげるかたちになります。マスクの着用を徹底した上で、礼拝堂と明星館ホールに分かれての礼拝となります。また収容人数（着席できる場所）を制限します。これまでは礼拝堂を主なる場所とし、礼拝堂に入れられない方が明星館ホールで礼拝するようにしていましたが、できる限り密を避けるため「礼拝堂とホールに分散しての礼拝」になります。

* 「家庭での礼拝」は、週報かホームページにある礼拝式順に従いささげられるかたちになります。詳しくは「家庭での主日礼拝の手引き」をごらんください。

* 礼拝はその本質を失わない仕方で下記（感染拡大時における「主日礼拝式順」）のように短縮します。

2 日々の祈り

*「聖書を学び祈る会」は休会とします。水曜日朝 10:30、それぞれの場で祈りを合わせましょう（「今週の祈りの目標」は週報をご覧ください）。

*キリスト者の日々の祈りととりなしは一層篤くされるべきです。聖書日課などを用い日毎に御言葉に聞き、生ける神との交わりを深めていきましょう。

3 牧会

*教会が託されている死の不安の中にある者への福音による慰め、教会の葬りの務めもこの期間も行うことができます。

*この時、生ける神との交わりから離れてしまう者がなく、日々互いに連絡し声を掛け合い、祈り励まし合うことを積極的に行いましょう。また信仰の悩み、緊急なことなど牧師に相談することができます。

感染拡大時における 「主日礼拝式順」

<招き>

前	奏
招	詞
讃	美

<み言葉>

聖	書
祈	禱
説	教
祈	禱

<応答>

讃	美
奉	献
主の祈り	

<派遣>

頌	栄
祝	禱
後	奏

わたしたちは神だけを畏れ、それ以外の何ものにも束縛されない「キリスト者の自由」のもと、神を信頼し、隣人愛に生きる者です。自分の命と健康を護ると共に、隣人の人権と健康を尊重する歩みをなしていきたいと願います。教会における感染対策は、自分たちの健康を護ることだけではなく、教会員や求道者、その家族などにつまずきを与えないよう配慮することが、教会とキリスト者の証しとしては大切になるでしょう。隣人愛により徹底した感染対策をしている教会なら、大切な家族を行かせても安心だと言ってもらえるものでありたいと願います。

すべてが可能なお方がわたしたちの味方でおられるのです。恐れや不安からではなく、主によって強められ信仰・希望・愛によって歩み続けましょう。そして、死の不安や病に苦しむ人、困窮するすべての人々のために祈りましょう。政治を司る人、救命・医療などに従事する人たちのために祈りましょう。世界の教会のために祈りましょう。札幌教会の兄弟姉妹・求道の友のために祈りましょう。不安や恐れの中にある多くの人々に神の愛と慰めが届けられるよう祈りつつ、隣人を励まし、愛の業に生き続けましょう。主は共におられます！

主にありて